

「学校評価」(共通項目)評価書

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明および学校の考え	関係者評価	学校関係者評価の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	A	・分掌や学年での会議の時間を確保したことにより、情報共有や組織を活用した迅速な対応をとることができている。 ・学校教育目標の具現化に向けて、校務分掌等組織や体制の見直しをさらに進める。	A	・教職員の意見を拝読するに、様々な取り組みを実施しているように感じる。 ・教職員からも学校評価における意見が出ていて取り組む姿勢がみられる。検討結果としてまだ対策が講じられていない課題もあるので、引き続き検討してほしい。 ・学校だより、ホームページ、メール等により目標達成に向け取り組んでいる様子がわかる。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 (※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)	A	・日常や定期的な施設設備の点検から不備や不具合は、児童の安全を第一に迅速に対応している。 ・生徒指導、教育相談、特別支援教育に係る部会を構成し、主任を中心に計画的に運営している。 ・いじめ防止では基本方針に基づき適切な対応、校内研修・児童アンケート・個別面談・教育相談等を実施、記録の共有、引継ぎ等確実な対応を継続する。	A	・日頃より避難訓練、ショート訓練等を実施して危機管理体制を整えている。 ・警察と連携し実働的な訓練(不審者対応訓練等)を行っている。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	・低学年補助教員、スクールサポーター、通常学級支援員等の効果的な配置から一人一人の学びの支援を継続する。 ・タブレット端末やAIDリルを活用し、個別最適な学びを充実させる。	A	・音読・体力アップカードは児童が進んで継続できるような工夫が必要だと思う。楽しく進んで取り組める仕組みが何かあるとよい。 ・基礎学力向上に伴う施策については様々な行っているように感じる。 ・音読や読書による基礎的な学習を大切にしていることから分かる。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	・振り返りの時間を確保した授業実践により、児童の学びの質を高める校内研修に取り組んでいる。 ・教材研究の質を高めるとともに授業改善を進め、主体性や思考力・表現力を伸長させる。 ・ICTの活用、体験的な学習を充実させ、児童の学ぶ意欲を高める授業をより充実させる。	A	・日々の大変な業務の中、年に12回も校内研修を実施しており、授業改善への意欲が見られる。 ・すららドリルの活用等により学力向上を目指している。 ・個々の学力の差は否めないが、学校として基礎学力の向上を目指す取り組みは実施されているように見える。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	・生活目標の取組や学期初めの「七小のやくそく」の確認により、規律ある態度を身に付けてきている。取組への振り返りを充実させる。 ・児童一人一人が、自ら何に重点を置くか考える場を設定した。この取組を継続させていく。	A	・月ごとに生活目標の取り組みや振り返りなどを通じて規律ある態度を身に付けている。 ・生活のルールなどは、親に言われるよりも、児童同士で注意しあう方が身につくのではと思うので、児童会によるあいさつ運動や、教室内で取り組みの共有などは出来ているので効果的だと思う。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	・規律ある態度の育成には教職員の共通理解、共通行動が不可欠である。組織として共通した指導に努める。 ・児童自身が自分事として考えられるよう、児童会や委員会の活動に取り入れるなど工夫した取組をしていく。	A	・非行防止教室等の開催、アンケート等の実施を行い、規律ある態度の指導の工夫改善に努めている。 ・ICTにおける、デバイス利用については、保護者も子どもに注視し、そもそものネットリテラシーを保護者・教職員それぞれが理解し、子どもに説明すべきではないだろうか。 ・落ち着いた感じの児童が多い。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	B	・各学年、学級で業前や業間休み、昼休みの外遊びを奨励している。 ・教材研究を深め、運動量を確保した体育授業、楽しく技能を伸ばせる体育授業を実践する。	A	・校庭の改良が進み、活動しやすくなっているのではないかと感じている。 ・体育カードの活用により意欲的に運動に取り組んでいる姿がわかる。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	A	・朝運動で持久走や縄跳びを行ったり、体育行事を設定したりして体力向上に取り組んでいる。 ・体育の教科担任制の実施や指導方法の工夫・改善など、指導の専門性を高め、体育授業の充実につなげる。	A	・児童生徒の体力を高めるため朝の持久走縄跳びの実施、鉄棒指導などを行っている。 ・寒い季節でも、楽しく外体育の授業を受けているようになり、先生が工夫してくれているのだと思う。 ・児童個人々の体力に合わせた実施が良い。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	・校区の自治会、市の社会福祉協議会、外部講師など地域の教育力を授業の中で活用している。消防署や浄水場の見学など公共施設を利用し、体験的な学習の充実に取り組んでいる。 ・父母と先生の会サークルによる読み聞かせ活動を実施し、児童も楽しみにしている。	B	・学校応援団の運用を明確化していきたい。 ・見守り隊、父母と先生の会、おやじの会との連携が課題である。 ・父母と先生の会をはじめとした一部保護者が取り組んでいることは否定しないが、保護者がまずは興味を持つことを期待したい。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	・地区委員会との連携により、校区内の安全指導やパトロールに取り組んでもらっている。 ・おやじの会、父母と先生の会等による夏祭りや餅つき体験、除草・樹木選定等を実施してもらっている。 ・二中校区ふれあい推進事業の幹事校を務めた。	B	・保護者による登下校の見守りはできる人できない人に偏りが出てしまう。 ・共助すべきことは学校に意見するだけでなく、保護者が出来ることにかかわるべきだと思う。 ・もっと地域との連携が必要。例えば、下校時間になったら地域のお店の店員さんや、日中家にいる方にビブスを付けて店や家の外に出てもらうなど、学校とPTAが連携して呼びかけるなど。

○「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA～Dで記入。

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満